

平成 26 年度 第 1 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

日 時：平成 26 年 4 月 24 日（木）14：00～16：30

場 所：琉球大学医学部附属病院 3 階がんセンター

出席者：10 名 樋口美智子（那覇市立病院）、神谷八重子（沖縄県立中部病院）、仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、望月祥子（ハートライフ病院）、古堅敦子（県立宮古病院）、宮良久美江（沖縄県立八重山病院）、上原弘美（沖縄県地域統括相談支援センター）、石郷岡美穂、増田昌人、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）、

欠席者：2 名 伊礼みゆき（居宅介護支援事業所なかがみ）、永吉美幸（県立南部医療センター・こども医療センター）

陪席者：1 名 井上亜紀（琉球大学医学部附属病院）

【報告事項】

1. 平成 25 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨（資料 1）

協議に先立ち、資料 1 に基づき、平成 25 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会について（1～3(2)月）

資料 2-1, 2-2, 2-3 に基づき、1～3 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」について、報告があった。

3. がん相談件数（1～3(2)月）

資料 3-1, 3-2, 3-3, 3-4 に基づき、樋口部会長より、各拠点病院のがん相談件数（1～2(3)月）について、報告があった。

4. 各部会事業の進捗報告について

(1) 【施策 1 関連】地域の療養情報第 4 版について

資料 4 に基づき、大久保委員より、3 月 31 日に第 4 版が発行されたとの報告があった。県には 3 月末に納品済みであり、第 3 版からの改訂のポイントをまとめたチラシを、県からの配布時の鏡文とともに同封していただいているとの周知があった。配布に関しては、専門病院に 300 部程度、その他、第 3 版と同様に、診療所・薬局・市町村・図書館・学校などへ県より順次発送される予定である。

(2) 【施策 1 関連】企業向け冊子「事業者と働く人のための がん治療と仕事 その両立支援のポイント」の発行について

資料 5 に基づき、大久保委員より、社会保険労務士・産業看護師・MSW・医師（元産業医）との共同で、基本的には事業所向けに制作し、がんについての基礎知識・仕事とがん治療を続けるためのポイントをまとめた啓発的なりフレットであるとの報告があった。こちらも、20,000 部作成し、県から各事業所に配布される予定で、配布先などは、県に検討していただいているところである。事業所以外にも、社

労士会や弁護士会、拠点病院・がん専門診療病院にも配布をお願いしているところであり、アンケート用紙も同封して配布いただく予定であるとの周知があった。

(3) 【施策3】7/27 がんサロン研修会（仮）の後援について

資料6に基づき、上原委員より、7/27 がんサロン研修会を行う予定であり、がんサロンの進行役の役割を理解し、模擬がんサロンを行い、受講者の運営にかかわる実践力を身に付けていただくことが目的である。部会の後援や、部会員の皆さんのファシリテータ（アドバイザー）のご協力を頂きたいとの依頼があった。

(4) 【施策3】小児がん経験者の会 Ti-da わらば一む交流会について

資料7-1, 2に基づき、上原委員より、小児がん経験者の会が作成5月より2か月に1回計6回開催され毎回7~8の参加があったが、今年の5月で1周年を迎えるとの報告があった。1周年を記念して、5/11にビーチパーティを行うので、部会の皆さんにもご参加いただきたいとの周知があった。

資料7-3に基づき、上原委員より、平成25年度琉大病院内でのがん相談業務（ピアサポート）の報告があった。1年を通して月平均20名の利用があり、沖縄県地域統括支援センターと国立がん研究センター相談支援センターとの比較では、当センターがご本人からの相談が75%と特に多く（国がん相談支援センターは、ご本人からの相談が45%で最多）、認知経路は、当センターが家族・友人・知人からで27%と多く（国がん相談支援センターは、医療関係スタッフからが36%で最多）、相談対応は、当センターが傾聴・語りの促進で70%と特に多かった（国がん相談支援センターは、情報提供が40%で最多）。全国の統括支援センターのデータを集計したものはまだないので、国立がん研究センター相談支援センターと比較し学会報告も行ったとの報告があった。

(5) 【施策6】がん相談員実務者研修について（3/14, 5/16 琉大病院・9/28 那覇市立病院）

資料8-1, 2, 3に基づき、大久保委員より、3/14に小児がんと患者支援をテーマとして、第4回の実務者研修会を琉大病院で開催し、小児がん経験者の会 Ti-da わらば一む世話役の外間さん、南部医療センター・子どもセンターMSW永吉さんに、講師をしていただいたとの報告があった。外間さんには経験をもとにお話いただき、永吉さんには小児がんの患者支援と小児がん相談マニュアルのお披露目をしていただき、参加者はMSW、医師、看護師の17名であったことも報告された。平成25年度は、拠点病院全体で計4回の実施で、集学的治療とがん相談が全体テーマであった。

大久保委員より、平成26年度は、第1回目を5/16 琉大病院にて開催し、CSRプロジェクト代表理事の桜井直美さんに、がんと仕事 就労支援についてのご講演とロールプレイを行う予定との周知があった。

樋口部会長より、第2回目を9/28 那覇市立病院にて開催し、前半に兵庫歯科大学大松先生によるがん患者サロン5周年記念講演と、後半に患者会連合会と共催でがん医療におけるピアサポートをテーマに講演を行う予定との周知があった。また、樋口部会長より、中部病院での研修会開催を検討頂きたいとの依頼があった。

(6) 【施策7】沖縄県がん相談支援マニュアル（小児がん対応用）について

資料9に基づき、石郷岡委員より、百名先生に監修いただき試作版が完成したとの報告があった。今年度は、関係各位への配布と活用のための研修会を行う予定で、5月下旬に予定しているWGでは、4月幹事会・5月協議会でいただいたご意見の検討、今年度のWG等の進め方、アンケートについて等々を検討することも報告

された。石郷岡委員より、百名先生より保健所との連携を進めていきたいとお話があったことも周知された。

【協議事項】

1. 平成 25 年度の部会事業の評価について

資料 10 に基づき、大久保委員より、①-1 地域の療養情報がんサポートハンドブック第 3 版の配布普及活動、①-2 第 4 版の作成、②相談センターの広報活動（ラジオ特別番組など）、③小児がんサバイバーのネットワーク作り、⑥相談員実務者研修会、⑦小児がん相談マニュアルの作成、⑧学会報告、⑩セカンドオピニオンリスト作成 HP 公開などの各施策は、目標達成しているため 10 点の評価としたとの報告があった。

那覇市立病院で人間ドック受診者に調査中で 5 月末までに 300 件めど(3 月末 180 件)収集するため④患者満足度調査の実施は 9 点、⑤相談内容の分析は、統一シートの運用が 3 拠点病院及び北部地区医師会病院でも行われているので 8 点、⑨周知用チェックリスト（下敷きタイプ）はたたき台を作成したので 3 点、⑪相談員の適正配置の要望・実務者研修参加の増加は、がん相談員ネットワークリストを作成したので 5 点の評価としたとの報告があった。

2. 平成 26 年度の部会事業の行動計画について

資料 11-1 に基づき、大久保委員より、①地域の療養情報がんサポートハンドブック第 4 版の配布普及活動、②相談センターの広報活動（ラジオ特別番組など）、③小児がんサバイバーのネットワーク作り、④患者満足度調査の実施、⑤統一シートを導入運用しての相談内容の分析、⑥がん相談員実務者研修会、⑦小児がん相談マニュアルの作成と研修会、⑧部会活動の学会報告、⑩セカンドオピニオンリスト作成 HP 公開などの施策は、前年度からの流れを組んで継続したいとの提案があった。今年度に修正したものとしては、⑨セカンドオピニオンの普及と活用として、平成 22 年度に医師向けに行ったアンケート調査を再度行うことを追加施策としたとの提案があった。

樋口部会長より、政策部会においても、部会事業については、拠点病院・専門治療機関としてがん相談支援センターや相談員が業務としてやるべきことを反映させた施策計画や沖縄県全体としての相談支援体制作り、他の部会にお願いした方がいい事業（施策）、部会事業（施策）の優先順位とボリュームなどを部会で検討するよう提案があったとの報告があった。また、樋口部会長より、拠点の用件にもなった PDCA サイクル、満足度認知度調査が優先事項になろうこと、関連してセカンドオピニオンを実施しているかの調査、就労支援の研修会等の事業も検討していきたいとの提案があった。

施策⑩は、相談員の適正配置の要望プラス、就労支援として相談員の適正配置だけでなく社労士などの多角的な人員配置の要望として修正したり、施策⑥の研修会を社労士との事例検討会・情報交換会にするなどの内容を検討して計画に盛りこむことが協議された。

増田委員より、琉大病院での社労士の派遣は週一午前中のみ可能であり今後調整することが周知され、樋口部会長より那覇市立病院は予算組みのみが決定しているとの報告があった。

増田委員より、社労士にも相談員基礎研修の内容を勉強してもらうなど、がん相談業務に関するレクチャーを受けていただく必要があり、3 拠点病院に社労士を配置するだけでなく、部会としても社労士会との情報共有・協働が必要との意見があった。

資料 11-2 に基づき、大久保委員より、行動計画は部会委員の変更があったり、施策の修正があったりするので、施策の担当は、去年に準じた案を作成し、追って各部会員に連絡することが了承された。大久保委員よ

り、相談センターの広報、相談員サロン、宮古や八重山の離島での出張相談も予算を踏まえて検討中であるとの周知があった。

3. 平成 26 年度の部会事業の予算について

資料 12-1, 2 に基づき、樋口部会長より、資料 11-1 や 11-2 の活動計画や行動計画と連動して予算立てしているとの報告があった。また、大久保委員より、1.-②の在宅医療や介護を担う医療福祉従事者の教材や教育技法の開発に関する研究班が不採択となったので、この部分は修正するとの報告があった。宮良委員より、八重山病院では 2 人が基礎研修(1)(2)を終了しているので、今年度は基礎研修(3)を受講する予定であるとの報告があった。

樋口部会長より、予算や行動計画も関わるが、がん相談支援センターの広報を行うと明記されており、がんサポートハンドブックは新聞広告・ラジオ等の広報を行っているが、普及啓発部会にご相談して、県や市の広報紙等をうまく活用したりできないか、県全体での相談窓口の広報や各部会の広報についても提案していきたいと考えているとの意見があった。

4. 平成 26 年度の部会委員、部会長の選定、及び部会の開催時期について

資料 13 に基づき、全員で協議の結果、部会長は昨年度に引き続き、樋口部会長にお願いすることになった。また、副部会長は、石郷岡委員、神谷委員のお二人に決定した。

5. 地域相談支援フォーラム 相談員・公開フォーラム（新方式パイロット）共催団体募集について

別紙資料に基づき、樋口部会長より、地域相談支援フォーラム、相談員・公開フォーラムの企画の募集についての説明があった。九州では今年度は長崎県、次年度は鹿児島県が応募するとの情報があったが、県の医務課に相談した際には、平成 28 年度以降の応募がよいとの回答であったとの報告があった。締切りが 4/30 でもあることから、部会としては今年度の応募は見送ることが了承された。

6. その他

(1) 長崎県がん診療連携協議会より

参考資料に基づき、樋口部会長より、“がんと向き合う サポートブック ながさき”の製作に際し、おきなわがんサポートハンドブックを参考にさせていただいたとの礼状が届いており、特徴としては本の紹介にページを割いているところ、裏表紙のポケットにがん専門病院一覧表(詳細版)が添付されているとの周知があった。4/23 に、那覇市立病院からほしぞら図書館にがん闘病記を中心に 69 冊の本を寄贈したとの報告もあった。

(2) 毎日新聞の記事より

参考資料に基づき、上原委員より、毎日新聞の「がん患者：高い自殺の危険性…求められる診断時からのケア」という記事の情報提供があった。樋口部会長より、臨床心理士さんが活躍している緩和ケアチームを持つ病院もあるし、相談支援センターのさらなる周知も必要であるとの意見があった。

(3) 部会への患者委員の推薦について

大久保委員より、各部会に患者委員に参加していただく件について提案があり、患者会連合会よりご推薦を

いただいたが、患者さん・ご家族・ご遺族のいずれでもない方であったため、部会として今回は保留とし、再度、増田委員が患者会連合会と調整することが了承された。

(4) 普及啓発部会より、情報提供

樋口部会長より、学研より「がんのひみつ」という本が2013年11月に発行されており、全国の小学校の図書館に配置されていることの周知があった。

(5) 次回、平成26年度第1回相談支援部会開催日について

第1候補日：平成26年7月17日（木）

第2候補日：平成26年7月24日（木）